看護師募集

地方独立行政法人
埼玉県立病院機構

埼玉県立
がんセンター

埼玉県立
循環器・呼吸器病
センター

埼玉県立
小児医療
センター

埼玉県立
精神医療
センター

育てる・咲かせる・あなたの看護

埼玉県立
循環器・呼吸器病センター

Saitama Cardiovascular and Respiratory Center

病床数 343床（一般292 感染症21 結核30）
職員数 641人
診療科目 循環器内科、腎臓内科、心臓外科、血管外科、放射線診断科、放射線治療科、呼吸器内科、緩和ケア内科、呼吸器外科、消化器外科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、脳神経外科、脳血管内治療科、脳神経内科、整形外科眼科、耳鼻いんこう科、歯科
交通 熊谷駅北口からバス「県立循環器・呼吸器病センター」下車

看護する喜びを実感してみませんか？
高度急性期医療から在宅へ その人らしさを大切にする看護を提供しています

当センターは、昭和29年に設立された小原療養所を前身とし、平成６年より埼玉県北部医療圏の循環器系・呼吸器系疾患の高度専門医療を提供する役割を担っている病院です。現在は心疾患、大血管疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患等に対する急性期医療、高度専門医療を提供しています。

近年では、ハイブリット手術室を備えた新館棟、緩和ケア病棟や腎・透析センター、脳神経センターなど、県北に必要な医療機能の充実を図っています。

また、地域医療連携やチーム医療活動を推進し、地域医療支援病院として埼玉県北部地域の医療サービスの強化に努めています。より質の高い医療、看護サービスの提供のため、職員全体で取り組んでいます。

	A病棟	新館棟		本館棟	
		西側	東側	西側	東側
4F	4階 A病棟	4階 C病棟	4階 B病棟	4階 西病棟	4階 東病棟
3F		3階 C病棟	3階 B病棟	3階 西病棟	3階 東病棟
2F		ICU・RCU	手術室	CCU	透析室・血管造影室
1F		外来		外来	

3B病棟

ICU・RCU

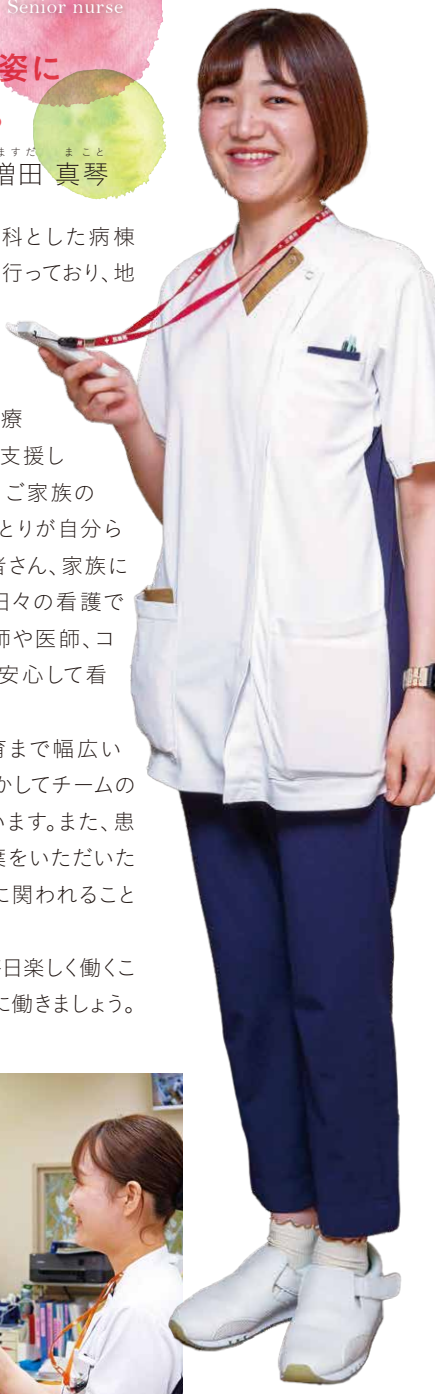
3B病棟　デイルームさくら

総合受付

Senior nurse

患者さんの回復していく姿にやりがいを感じています。

先輩看護師　3階東病棟　増田（ますだ） 真琴（まこと）



3階東病棟は、循環器内科を主科とした病棟で、心臓疾患の高度な治療や検査を行っており、地域だけでなく県外からも多くの患者さんが治療を受けています。

高齢化が進み、心不全が増加している今日、患者さんが安心して治療や入院生活を送れるようにチームで支援しています。更に、患者さんだけでなく、ご家族の思いにも耳を傾け、患者さん一人ひとりが自分らしい生活を送ることができるよう患者さん、家族に寄り添った看護を実践しています。日々の看護で悩んだ際は、経験豊富な先輩看護師や医師、コメディカルに相談できる環境なので安心して看護が実践できます。

急性期から再発防止の患者教育まで幅広い看護ができること、専門的知識を活かしてチームの一員として働くことができ充実しています。また、患者さんやその家族からの感謝の言葉をいただいたり、元気な姿で退院される患者さんに関われることが大きなやりがいに繋がっています。

たくさんのやりがいを感じながら、毎日楽しく働くことができています。ぜひ、私たちと一緒に働きましょう。お待ちしています。

看護部長からのメッセージ

信頼される看護師をめざして！

循環器・呼吸器病センターは、循環器・呼吸器系疾患の高度急性期医療を提供し、特に埼玉県北部の地域医療を担っています。近年では、感染症病床や腎・透析センター、脳神経センターの開設など機能を拡大し、多くの救急・重症患者さんを受け入れています。

循環器疾患・呼吸器疾患看護は、特に生命の危機的状況での実践能力や精神的ケアが必要とされます。看護部は“患者さんの生命・権利を尊重し、信頼される看護部をめざす”を理念に掲げています。「安心・安全」「患者中心」「協働」「成長」「参画」の5つを活動方針に挙げ、看護師一人一人が、患者さんの“いのち”に寄り添って、最善のケアを提供できるよう取り組んでいます。

看護部では、確かな知識と技術で、患者さんへ安心・安全な看護が実践できる信頼される看護師を育成しています。また、疾患とともに生きる患者さんが、その人らしく生活できるように退院後の生活を見据えた支援も行っています。

急性期の臨床では専門的な技術と実践力が必要とされますが、皆さんをサポートする教育体制を整え、専門研修などの様々な研修プログラムを用意し学びを支援しています。皆さんが循環器・呼吸器看護を通じ、人として、看護師として成長できるよう、全力でサポートをしていきます。一緒に循環器・呼吸器看護を実践していきましょう。

株﨑 雅子
副病院長兼看護部長

埼玉県立
がんセンター

Saitama Cancer Center

病床数　503床
職員数　852人
診療科目　血液内科、乳腺腫瘍内科、乳腺外科、緩和ケア科、精神腫瘍科、消化器内科、内視鏡科、消化器外科、呼吸器内科、胸部外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、婦人科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科、腫瘍診断・予防科、総合内科、臨床検査科、心療内科、リハビリテーション科
交通　丸山駅から徒歩15分

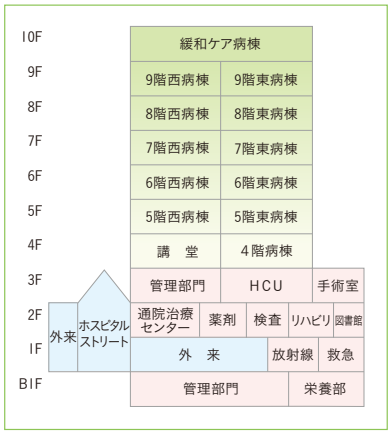
高度先進がん医療に基づく、専門的知識・技術に支えられた“心のこもった看護”を実践しています

埼玉県民のがん克服の期待を担い、昭和50年の開設以来、数度にわたる増床を経て、平成25年12月に503床へと増床し、埼玉県のがん医療の中核病院として貢献してきました。平成20年には「都道府県がん診療連携拠点病院」として国から指定を受け、県内13か所の「地域がん診療連携拠点病院」及び13か所の「埼玉県がん診療指定病院と地域の医療機関と連携して県内のがん医療の向上に努めています。

がんセンターは、がん治療の3つの柱である手術・放射線治療・化学療法など先進のがん医療の提供、がんと診断を受けたときからの緩和ケアにより、状況に合わせたきめ細い治療を行っています。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の活用、少ない副作用で効果が得られる高精度放射線治療、新規薬剤の導入に向けた臨床試験・治験、がんゲノム医療の推進に力を入れています。また、地域における継ぎ目のない医療と介護を提供するため、患者さんやご家族、地域を含めたチーム医療を推進しています。

令和4年4月から患者サポートセンターが新組織として誕生しました。入院前から退院後まで、継続的な支援により、患者さんが抱える様々な相談への対応、がんに対する正確な情報提供なども行っています。

私たちと共に生命の尊厳と倫理を大切にし、患者さんが心身ともにがんで苦しむことのない世界を目指したがん看護を実践しませんか。



ホスピタルストリート

緩和ケア病棟デイルーム

患者サポートセンター

シンボルマークのハートツリー

図書館

Senior nurse

患者さんが元気になり退院される姿を見ることが看護の喜びです。

先輩看護師　5階西病棟　古川（ふるかわ） 洋平（ようへい）

私が勤務している消化器外科病棟は、胃癌や大腸癌、肝臓癌などの手術を目的とした患者さんが多く入院しています。日々の患者・家族ケアを通じ、周術期看護を専門的に学ぶことができます。患者さんは、疾患に対する不安、手術に対する不安、痛みに対する不安など多くの不安を抱えて入院してきます。身体的な苦痛だけでなく、精神的な苦痛にも寄り添う看護を行っています。また、経腸栄養や、人工肛門の管理が必要な患者さんが多く、その人の生活に合わせた指導を行い、在宅療養につなげています。様々な問題を抱えながらも住み慣れた自宅での生活を望む患者さんも多く、多職種と連携しながら社会資源の導入について検討し、患者さんやご家族のニーズに沿った退院支援を行っています。まだまだ経験も浅く、患者さん一人ひとりに合わせた看護を行うことの難しさを感じることもありますが、頼れる先輩や同期の支えもあり、毎日楽しく働いています。患者さんが元気になり、退院される姿を見る時が、看護の喜びを実感できる瞬間です。

看護部長からのメッセージ

認め合い、支え合い、成長する看護部で、自分らしい看護を実践しませんか。

がんセンターは、高度先進がん医療を実践するがん診療連携拠点病院として、「日本一患者さんと家族に優しい病院」を目指しています。病院の理念である「唯命惜～ただ命を惜しむ～」のもと、がんで苦しむことのない世界を目指すために、がんの痛みをはじめとする苦痛症状の緩和に向けた看護を実践しています。

看護部の理念は「患者さんの権利を尊重し、質の高い看護を提供する」ことです。めまぐるしく変化する社会の中で、専門職である看護師は日々学び続け、その変化に柔軟に対応していく力が必要です。看護部ではがん看護に必要な看護実践力を身につけられるよう教育体制を整備し、次世代のがん看護を担う看護師を育成しています。また看護師としてのキャリアデザインを描き、看護師として誇りとやりがいを持ち続けられる組織づくりを目指しています。

私たち看護師がもっとも大切にしていることは、患者さん一人ひとりがその人らしく生きることを支えることです。そのために、その一瞬一瞬を大切に患者さんやご家族に寄り添い、思いやりのある心のこもった看護を実践しています。

患者さんやご家族の喜びを自分の喜びに変え、仕事を通して自己成長できることはがん看護の魅力です。「がん看護が好き」と自信と誇りをもち、チーム医療の要として看護に取り組む先輩看護師と共に、がんセンターで看護師としての第一歩を踏み出してみませんか？元気で笑顔でいきいきと自分らしい看護が実践できるよう「認め合い、支え合い、成長する看護部」が全力でサポートしていきます。

福山 康恵
副病院長兼看護部長

埼玉県立
小児医療センター

Saitama Children's Medical Center

病床数	316床
職員数	908人
診療科目	総合診療科、新生児科、代謝・内分泌科、消化器・肝臓科、腎臓科、感染免疫・アレルギー科、血液・腫瘍科、遺伝科、精神科、神経科、循環器科、放射線科、外科、移植外科、整形外科・リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、病理診断科、歯科、集中治療科、救急診療科、外傷診療科、臨床検査科
交通	さいたま新都心駅から徒歩5分

子どもの命の重さを実感しながら、最善の看護を目指しています

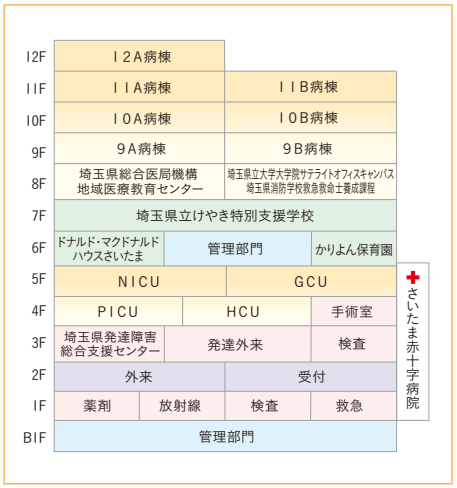
小児医療センターは、「For the future, for the children ーこどもたちの未来は私たちの未来ー」を理念に開設された小児専門の三次医療機関です。

診療科には内科系・外科系の各科をはじめ、遺伝科、精神科、放射線科、病理診断科、保健発達部などがあり、総合医療施設として小児のあらゆる疾患に対応し、埼玉県内における小児医療の最後の砦として、救急疾患や複合疾患のある患者さんの診療にあたっています。

また、在宅医療をしている患者さんが受診しやすい環境を整えている他、通学できない子どもたちのために、県立けやき特別支援学校を併設しています。

平成25年には「小児がん拠点病院」に全国15施設の1つとして指定されました。同年に「地域連携・相談支援センター」を院内に新設し、地域医療機関と連携しながら患者さんと家族が安心して適切な医療が受けられる環境を整備しています。

平成28年度にはさいたま新都心へ移転し、周産期医療体制の整備、救急医療体制の充実を目的とし総合周産期母子医療センター・小児救命救急センターを開設しました。子どもたちの未来のため、子どもたちの最善を目指した小児看護を実践しています。



子どもの目線に合わせたスタッフステーション

子どもと一緒に作成したアート

NICU病棟内

2階ラウンジ（8体のマスコット）

手術室のアートワーク

「星めぐりの歌」の部屋

子どもの安心・笑顔のために看護をしています

先輩看護師 PICU 神喰（かみじき） 大希（だいき）

私が勤務している集中治療室は、様々な疾患や既往のある新生児期から学童期の幅広い患者さんが対象であり、手術直後の管理や急変対応、一般病棟への移行準備等、様々な役割を担っています。

子どもが好きな私は、重症な患者さんが入院していることに辛いと感じる場面もあります。しかし、子どもが好きだからこそ、適切な看護実践で子どもたちの生命力を引き出し、状態が安定するようにしていきたいと考えています。そして、患者さんの状態が刻一刻と変化する中で、患者さんの一番そばにいる看護師が小さな変化を逃さず捉えることが重要だと感じています。そのため、知識や技術を身につけて観察や看護実践が行えるように、日々勉強しています。また、集中治療室と聞くと、ご家族も大きな不安を抱えると考えられます。

子どもとご家族が安心して治療を受けられるよう多職種と連携し、ご家族とともに療養環境を整えたり、治療中でも成長・発達を促すことができるような支援を心掛けています。そして、そのことが子どもたちの安心や笑顔につながり、子どもたちが元気になる姿を見て役に立ててよかったと、看護師としてのやりがいを感じています。

看護部長からのメッセージ

子どもとご家族を支え、子どもたちの笑顔に支えられる看護

埼玉県立小児医療センターは、県内唯一の小児総合医療施設として、平成28年12月末にさいたま新都心に移転しました。

24時間体制でリスクの高い新生児、重篤な小児救急患者さんを受け入れているほか、先天性心疾患の治療や生体肝移植を実施しています。また、小児がん拠点病院として血液がんの患者数は全国一であり、先進医療であるCAR-T療法やゲノム治療も開始しています。

センターは「子ども憲章」を掲げ、子どもたちが一人の人間として尊重され、最善の方法を選択し安心できるような療養環境を提供しています。

私たち看護師は、子どもセルフケア看護理論を基盤とし、子どもとご家族の思いに寄り添い、子どもとご家族が持っている力を引き出すことを大切にしています。

小児看護を目指す皆さん、小児看護への情熱や思いを小児医療センターで実現しましょう。看護部は、看護師一人一人が、安心で安全、責任ある行動がとれるよう、それぞれの個性を尊重しながら、実践能力に合わせた指導を行い、思いやりのある看護師を育てています。

小児看護を極めていく道は厳しいかもしれません。しかし、私たちの看護が『子どもやご家族を支える』、病気を持ちながらも頑張っている『子どもたちの笑顔が私たちを支える』、そんな関係ができたら素晴らしいと思っています。

子どもたちの素敵な笑顔が皆さんを待っています。私たち看護部一同も、看護を通じて『夢』『やりがい』『よろこび』が感じられる職場となるよう、環境を整えてお待ちしています。

中田 尚子
副病院長兼看護部長

埼玉県立
精神医療センター

Saitama Psychiatric Hospital

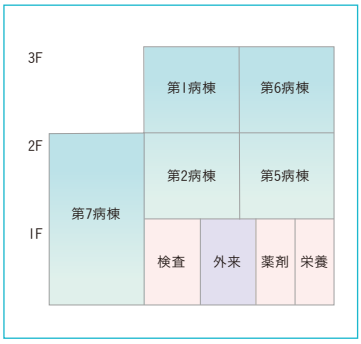
病床数	183床
職員数	228人
診療科目	精神科、児童・思春期精神科
交通	丸山駅から徒歩8分

「チーム精神医療センター」を目指して

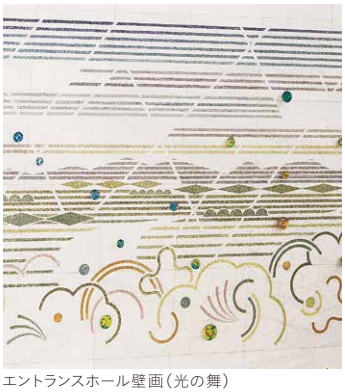
精神医療センターは、埼玉県唯一の県立精神科病院としての役割を果たすべく、精神科の24時間救急、依存症対策、児童思春期への対応及び医療観察法病棟の設置等により、民間では治療困難、処遇困難な精神疾患患者を多く受け入れています。そして、医師、看護師、精神保健福祉士、心理士及び作業療法士等で構成された、多職種チーム医療による「チーム精神医療センター」として、高度専門医療を提供し続けるために、職員全体が奮闘しています。

看護部では、約150名の看護師が、子どもから高齢の患者さん一人ひとりと出会う中で、常に自分自身と向き合い、チーム精神医療センターの一員としてのリーダーシップを発揮すべく、日々努力しています。

精神領域の看護実践の成果は、他領域と比べると見えにくく、やりがいを感じることが難しいことも多いですが、チーム医療の実践により、自分ひとりの力は微力ですが決して無力ではないことを実感することができます。そして、精神医療センターでは、精神医療の最前線で、自己変革のためのたゆまぬ研鑽を積みながら、看護師として、そして何より一人の人間としての成長を目指すことができます。



第二外来（小・中学生を対象とした外来）受付


エントランスホール壁画（光の舞）

プレイルーム

中庭

デイルーム

患者さんの生活に寄り添う看護実践を心がけています

先輩看護師　第Ⅰ病棟　杉原（すぎはら） 愛理（あいり）

私が所属している第Ⅰ病棟は、統合失調症や双極性障害などの精神疾患を持つ患者さんが入院しています。主な治療は、薬物療法や精神療法ですが、患者さんやご家族が疾患に対して正しく理解することが大切です。しかし、患者さんの中には、自分の身体の異常を自覚できなかったり、病状を上手に伝えられなかったりします。そのため一人ひとりの状態をよく観察して、わずかな変化に気づくことは看護師の重要な役割だと感じています。患者さんの思いをよく聴き、患者さんを中心とした多職種連携を行い、個々の状態に合わせたチーム医療が提供できるよう治療をすすめています。様々な背景を持つ患者さんと信頼関係を構築する難しさはありますが、対話を大事にして取り組んでいます。また、退院前訪問を実施し患者さんの生活に寄り添う看護実践を心がけています。患者さんが退院やその後の生活に向けて頑張る姿が私の看護のやりがいです。

Senior nurse

看護部長からのメッセージ

人のこころに向き合い、チームで支え、患者さんの生活に寄り添った看護

埼玉県立精神医療センターは、県立の精神科病院として24時間精神科の救急対応を行っています。また、児童思春期の精神疾患患者へは県内で唯一入院対応を行うとともに、医療観察法病棟を有し、民間では対応困難な精神疾患への対応を行っています。そのため、精神科看護においてもその専門性が高く求められ、看護部では精神科看護の質の向上に向けて習熟段階別に教育を行っています。

精神科看護では患者さんのこころと向き合うため、まずは患者さんと信頼関係を築くことが重要です。そのため、精神科看護の技術としてコミュニケーションスキルを磨き、患者さんとの信頼関係を築いて患者さんの社会復帰への支援を行います。しかし、急性期の状態にある患者さん等の対応では、時には患者さんの負の感情に対峙することがあり、自分自身の感情にも向きあわなければなりません。人の感情に向き合うやさしさと強さを身に着けることが大切です。

また、近年精神科医療においては、精神疾患患者さんへの虐待が問題となっています。埼玉県立精神医療センターでは職員一人ひとりが倫理観を醸成する取り組みを積極的に行い、精神疾患患者さんの人権を最大限に尊重する取り組みを行っています。

「チーム精神医療センター」をスローガンに、多職種で患者さんの人権を尊重した医療の提供に向け、専門性の高い看護が実践できる看護師の育成を支援しています。

植木 恵子
副病院長兼看護部長

新人教育

4月に入職してから、各病院でのオリエンテーションや県立病院合同での職員研修等が行われます。職員としての基礎を身につける他、各病院での専門性を考慮した看護技術や看護記録等の業務に必要な研修が準備されています。

研修内容

- 新規採用者研修
- オリエンテーション
- 病棟研修（シャドウ研修）
- 感染管理、医療安全
- 看護技術演習

日勤業務の自立度を確認しながら、夜勤のトレーニングが始まります。この時期には救急看護についての研修や、チーム内でのメンバーシップを学ぶための研修が行われます。

研修内容

- フォローアップ研修
- 救急看護
- リーダーシップ（チームメンバー）

4—6月

新人看護師教育支援体制

新人看護師の成長を支援する体制を作っています。新人看護師が安全で安心して看護を実践できるように、チームで日々の看護を実践します。また先輩看護師は、新人看護師の学習方法や不安など、何でも話せるような雰囲気で丁寧に指導を行っています。

7—9月

フォローアップ研修

4月	1か月フォローアップ
6月	4病院合同リフレッシュ研修　3か月フォローアップ
9月	6か月フォローアップ
3月	1年目フォローアップ

地方独立行政法人埼玉県立病院機構の クリニカルラダー

質の高い看護が提供できる看護職員を育成するために、習熟段階をラダーレベルⅠからⅤ段階に設定しあるべき姿を定めています。各病院の専門性を追求し、自ら看護実践能力を開発できるための支援を行っています。

レベルⅠ（1年目）
基本的な看護手順に従い、必要に応じ助言を得て看護を実践する

レベルⅡ（2～3年目）
標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する

レベルⅢ（4～6年目）
ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する

レベルⅣ（7～9年目）
幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する

レベルⅤ（10年目以上）
より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高める看護を実践する

夜勤の一人立ちに向けて、経験を重ねていきます。日常業務を通して、看護実践力の向上を目指していきます。研修としては各病院で医療安全や感染防止を学ぶ研修が行われます。

研修内容

・医療安全
・感染防止
・看護技術演習

10—12月

専門研修

各県立病院の専門分野に関する研修

例）●**がん看護専門研修**……がん化学療法、がん手術療法、がん放射線療法、緩和ケア、がんリハビリテーション看護　他
●**精神科看護専門研修**……ベーシック研修、アドバンス研修
●**循環器・呼吸器看護専門研修**……心電図ステップアップ、スキンケア、脳神経看護、呼吸器看護（がん看護含む）等
＊小児看護専門研修は、クリニカルラダー研修に含まれています。

その他、院外研修として法人本部主催、自治体病院協議会主催、日本看護協会・埼玉県看護協会主催研修、その他研究会、学会に積極的に参加しています。

2年目に向けて、1年間の振り返りを行い、今後の自分に必要なものは何かに気付き、2年目に向けて目標を確認します。フォローアップ研修をとおして自己の成長を確かめ、さらに看護の考え方を深めます。

研修内容

・フォローアップ研修

1—3月

キャリアデザイン

県立病院では、クリニカルラダーを採用し、段階的に人材育成を支援しています。 各レベル別に研修が行われており、生涯成長できるような教育体系が整っています。院内研修だけではなく、院外研修にも参加することができます。
また、マネジメント（ライン職）とスペシャリスト、ジェネラリストの3つのコースがあり、自分の希望に合わせたキャリアデザインを行うことができます。マネジメント（ライン職）として昇任した場合、職員の管理や病棟の管理を主に行います。スペシャリストは、認定・専門看護師としての知識・経験を生かし、現場においてスタッフの指導や看護実践を行います。スペシャリストやジェネラリストも、昇任選考でマネジメント（ライン職）になることが可能です。

※埼玉県立病院機構ホームページに「県立病院教育体系概念図」を掲載しています。詳しくはそちらをご覧ください。

埼玉県立病院機構教育体系概念図

埼玉県立病院機構では専門看護師・認定看護師の資格取得を応援します。

埼玉県立病院機構では専門看護師や認定看護師の育成に力を入れています。
専門看護師資格取得のために大学院修士課程に通う場合、研究休職制度を利用することができます。
休職中でも給与の7割が支給されます。
また、認定看護師教育機関での研修の受講を支援するため、研修に係る費用の助成を行っています。
埼玉県立病院では、現在79名の専門看護師・認定看護師が活躍しています（令和6年4月1日現在）。

循環器・呼吸器病センター

「食べたい」という思いかなえるために、実践を重ねています。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

ICU/平成30年認定
野口（のぐち） 雅子（まさこ）

私が認定看護師を目指したきっかけは、急性期治療を行う集中治療室の経験があったからです。急性期病院の現場では治療が最優先され、「食べたい」と訴える患者さんの思いを叶えることができないことが多くあります。そのため急性期であっても、早期から経口摂取に向けた支援を開始する必要性があると、日々感じていました。そして、そのような患者さんの思いを叶えたいと考え、摂食嚥下に関する専門的な知識や技術を学び認定看護師の資格を取得しました。

現在は、病棟で働きながら活動日に他病棟へ出向き、摂食嚥下障害のある患者さんの状態の把握、食事の評価、患者さんへ食べ方の指導、ご家族への対応、看護師に食事介助の方法などを指導しています。また、摂食嚥下障害が重度の患者さんには、医師・コメディカルと連携し、専門的な検査を実施して「食べる」ための評価を行い、少しでも経口から摂取できるように支援しています。患者さんが最初のひと口を食べられた後に、「おいしい」と笑顔で言っていただける言葉にやりがいを感じながら、さらに成長できるように日々実践を重ねています。

その人らしく生きることを支える看護

がん化学療法看護認定看護師

9階東病棟/平成26年認定
吉田（よしだ） 絢美（あやみ）

がん化学療法は、新しい薬の開発や支持療法が確立されている一方で、多様な副作用を引き起こすことがあります。患者さんは、ご自身の病気に対してだけでなく、副作用やそれに伴う日常生活への影響などにも不安を抱いて治療を受けています。その不安を緩和できるよう、思いに寄り添うことを心がけ支援しています。

看護実践や他のスタッフと看護を共有する中で、化学療法が治療の選択肢となる患者さんやその家族の意思決定過程から、病棟や外来での抗がん剤治療の実施、治療中やその後のフォローアップという一連の経過の中で行われる看護に対して専門性を活かした実践・指導・相談を行うことが大切な役割であると感じています。

がん化学療法に関する最新の知識と技術を用いて、多様なニーズに対応した全人的なケアを実践することで、患者さんとその家族がその人らしく生きることを支えると共に、看護の質の向上に貢献できるよう日々活動しています。

がんセンター

Cardiovascular and Respiratory Center

Cancer Center

Certified Nurse Specialist
Certified Nurse

Children's Medical Center

Psychiatric Hospital

専門看護師(11名)

- がん看護 3名
- 小児看護 6名
- 在宅看護 1名
- 慢性疾患看護 1名

精神科認定看護師(8名)

認定看護師(60名)

- 感染管理 5名
- 糖尿病看護 5名
- 慢性心不全看護 2名
- 透析看護 1名
- 脳卒中リハビリテーション看護 1名
- 緩和ケア 8名
- 皮膚・排泄ケア 5名
- 手術看護 4名
- 認知症看護 2名
- がん化学療法看護 6名
- がん性疼痛看護 4名
- がん放射線療法看護 1名
- 乳がん看護 2名
- 集中ケア 3名
- 新生児集中ケア 5名
- 小児救急看護 2名
- 摂食嚥下障害看護 3名
- 小児プライマリケア 1名

小児医療センター

赤ちゃんの健やかな成長が私の喜びです。

小児看護専門看護師

NICU(5A病棟)/令和2年認定
矢野(やの) 敦子(あつこ)

私は、小児循環器看護や集中治療看護にやりがいや楽しさを感じ、小児看護専門看護師を目指しました。現在は、総合周産期母子医療センターとしての役割を担っているNICUで、小児看護専門看護師として活動しています。

担当している胎児診断・胎児心臓外来では、胎児期に先天性疾患と診断された子どもやご家族が、心身共に十分な準備をして出産をむかえ、速やかに子どもの治療が開始されるようにチームで取り組んでいます。「子どもの疾患は見つかったけど、生まれる前にわかってよかった。前向きに考えることができてよかった。」と、ご家族が子どもの疾患を理解し、治療に向き合えるよう、支援することが目標です。初めて外来で担当した子どもの出産に立ち合い、ご家族と一緒に喜んだ時の感動は忘れられません。

これからも、外来のシステム作りや多職種との調整、スタッフ教育を実践しながら、小児看護専門看護師として、子どもやご家族の頑張る力を支えられる看護師でありたいと思っています。

患者さんの夢や希望を聞きながら、患者さんの暮らしを考えることが退院支援の魅力です。

精神科認定看護師

第6病棟/平成26年認定
佐藤(さとう) 久美子(くみこ)

精神医療センター

私は、看護師として多くの患者さんと関わりながら、必要な社会資源は何か、退院後の生活支援とは何かを考えるようになりました。この思いが認定看護師を目指したきっかけとなり、専門的な知識と技術を学び、退院支援の精神科認定看護師になりました。

認定看護師になってからは、入院中の患者さんや通院する患者さんと関わり、環境の調整や生活指導などを行っています。「患者さん自身の夢や希望を聞き、暮らしを一緒に考えていくことによって、患者さん自身が健康的な生活を目指してチャレンジすることができる」ということを学びました。

私は現在、外来・地域支援科で勤務しています。患者さんが、地域でいきいきとした生活が送れるよう、多職種と協働した活動を行っています。また、認定看護師としては、訪問看護ステーションなどの地域関係機関に出向き、病院と地域の繋がりを強化するための継続した支援活動を行っています。

今後も退院支援の魅力をスタッフに伝え、看護の質向上に貢献したいと考えています。

ワークライフバランス

相談体制

職員の相談体制も充実しています。新人の相談体制については、新人の支援者を配置し、新人看護師の不安軽減に大きく貢献しています。

年に一度、「職務満足度調査」を実施し、勤務に当たって職員の生の声を集め、職務環境の改善を図っているほか、人事異動や育児等の配慮については、「自己申告制度」によって、職員の状況把握に努めています。

子育て支援

県立病院は子育て支援にも力を入れています。育児休業後にも、勤務時間を短くすることができる育児短時間勤務や部分休業など、職員の実情に合わせた勤務形態を選ぶことができます。実際に多くの職員が制度を利用し、仕事と育児の両立を図っています。

また、小児医療センターには「かりよん保育園」、がんセンター・精神医療センターには「もりの保育園」という名称で院内保育所が設置されており、たくさんの職員が子どもを預けて、安心して業務に取り組んでいます。夜間勤務ができるよう院内保育所は夜間も対応しています。

院内保育所

「院内保育は365日やっていて、夜間も預けられます！とても助かっていて仕事しやすいです！子育てと両立できるのは、もりの保育園のおかげです！」

宿舎生活

全ての病院で、病院から徒歩5分～15分圏内に看護師宿舎を用意しています。家賃は管理費別で月2,600円～16,600円（病院による）で、希望者は駐車場も借りることができます。

例年、ほぼすべての希望者が入寮できていますが、希望者多数の場合は抽選等で調整をすることがあります。

看護師宿舎は各病院の見学会やインターンシップの際に見学することができます。興味がある方はぜひ一度ご覧ください。

「職場から近いだけでなく、賃料が安いので経済的に助かっています。宿舎に暮らす同僚たちとの交流も楽しみの一つです！」

がんセンター宿舎

サークル活動

各病院ではサークル活動も盛んに行われています。看護師に限らず、多職種が集まって、スポーツや文化活動に取り組んでいます。

バレーボール、フットサルなどの種類があり、サークル活動でリフレッシュし、日頃の運動不足も解消できて充実できます。他の病棟の看護師や他職種の人とも仲良くなれます。

写真はイメージです。

埼玉県立病院について

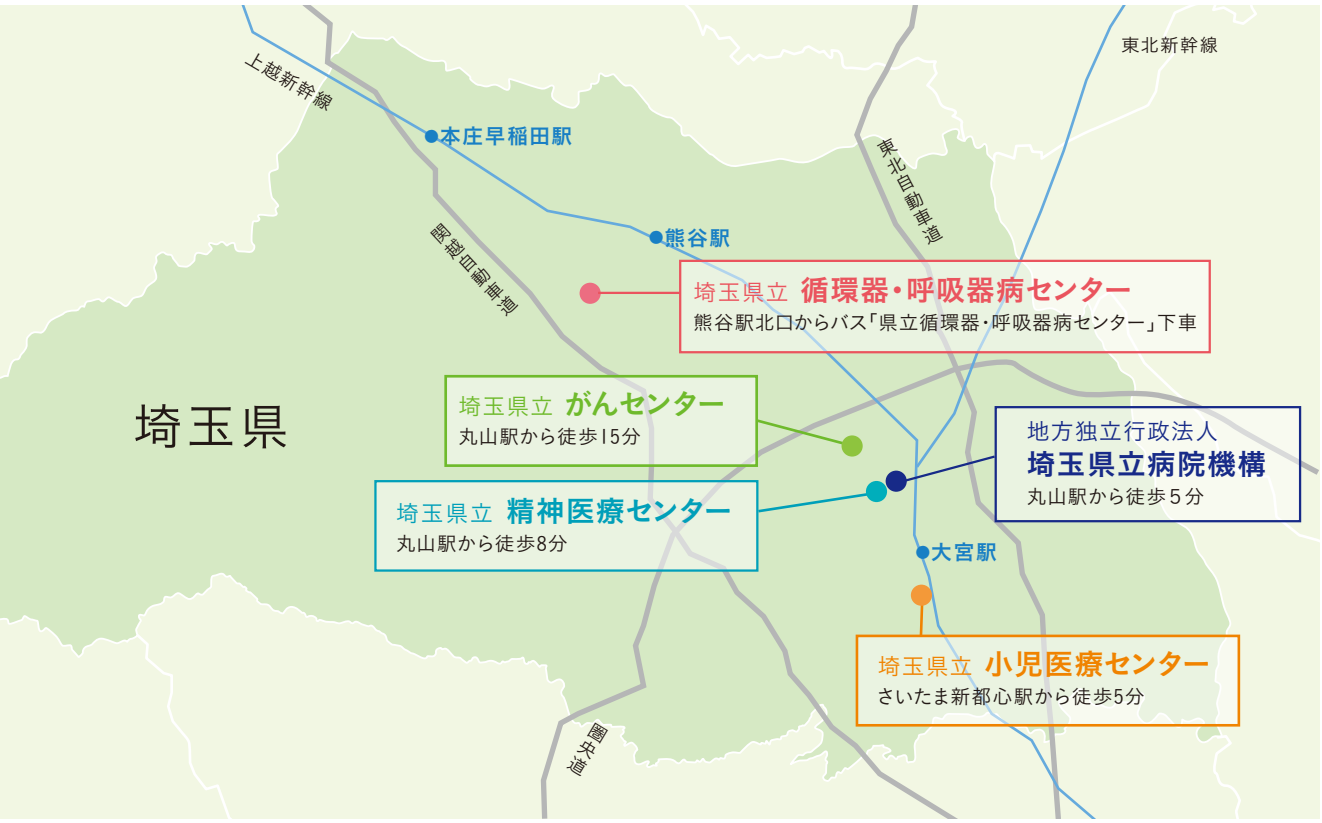
県民の方を向いた、患者さんのための医療

埼玉県立病院機構では、高度・専門・政策医療を担うため、循環器・呼吸器病センター（熊谷市）、
がんセンター（伊奈町）、小児医療センター（さいたま市中央区）及び
精神医療センター（伊奈町）の4病院を運営しています。
県立病院は「県民の方を向いた、患者さんのための医療」を理念に掲げ、
医療に対する高い志と熱意を持ったスタッフたちとともに、
医療の質や患者サービスの向上に力を注いでいます。
また、埼玉県内における更なる医療体制の充実を図るため、
新たな取組を進めています。
県立病院は、ともに歩んでいく看護師を求めています。
新たなステージを切り開いていくのは私たちとあなたの「力」です。
躍進する埼玉県立病院で、あなたの看護を育てて、咲かせていきませんか。

採用選考・処遇

1	時　　期	例年5月に実施しています。
2	募集人数	年度によって異なりますので、ウェブサイトをご覧ください。
3	受験資格	採用時60歳以下であること。看護師免許を取得している又は採用までに取得見込みであること。
4	選考方法	作文試験、適性試験、人物試験（令和6年度）
5	給　　与	4年制大卒／342,000　3年制専門学校卒／336,000 2年制高校専攻科卒／327,000　※令和6年4月1日現在
6	勤務体制	4週間を平均して1週間あたり38時間45分勤務。標準的な勤務体制は次のとおりです。 二交替制 ： 日勤 08:30-17:15／ 夜勤16:00-09:30 三交替制 ： 日勤 08:30-17:15／ 準夜勤16:30-01:15／ 深夜勤0:30-09:15
7	昇　　給	年1回
8	賞　　与	年2回／年間4.5月（令和5年度実績）
9	休暇制度	年次休暇／年間20日（4月1日採用の新規採用職員は15日） 特別休暇／夏季休暇5日、リフレッシュ休暇3日、結婚休暇、出産休暇ほか

※採用選考の詳細は、ウェブサイトで公開する受験案内をご確認ください。



埼玉県立循環器・呼吸器病センター

埼玉県立がんセンター

埼玉県立小児医療センター

埼玉県立精神医療センター

インターンシップ・見学会のご希望や病院へのお問い合わせはこちらにご連絡ください。

埼玉県立 **循環器・呼吸器病センター**	〒360-0197　埼玉県熊谷市板井1696　TEL.048-536-9900　FAX.048-536-9920
埼玉県立 **がんセンター**	〒362-0806　埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780　TEL.048-722-1111　FAX.048-722-1129
埼玉県立 **小児医療センター**	〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2　TEL.048-601-2200　FAX.048-601-2201
埼玉県立 **精神医療センター**	〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2　TEL.048-723-1111　FAX.048-723-1550

採用選考・勤務条件等についてはこちらにお問い合わせください。

埼玉県立病院機構 本部　TEL.048-748-3239
〒362-0806　埼玉県北足立郡伊奈町大字小室８１８番地
埼玉県立がんセンター研究棟６階

埼玉県立病院機構

地方独立行政法人
埼玉県立病院機構